

平成29年度 シラバス (ダイビング)

学番 78 新潟県立海洋高等学校

教科(科目)	水産(ダイビング)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年(資源育成コース・食品科学コース)
使用教科書	潜水技術検定テキスト(社会スポーツセンター)				
副教材等	よくわかる潜水土試験(ナツメ社)				

1. 学習目標

ダイビングおよび潜水土に関する基礎的な知識と技術を習得し、自然と共生した豊かな沿岸域の調査・開発・整備・利用のあり方について考える態度を養う。また潜水土資格の取得を目指す。

2. 指導の重点

ダイビングおよび潜水土に関する基礎的な知識と技術を習得し、自然と共生した豊かな沿岸域の調査・開発・整備・利用のあり方について考えられるように、

- ①ダイビングの意義と沿革及び現状を理解することを目指します。
- ②水中環境と人体への影響について理解することを目指します。
- ③ダイビング機器の種類や使用方法を理解することを目指します。
- ④安全な潜水活動及び緊急時に対応できる知識の習得を目指します。

3. 指導計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5	○潜水業務 (1学期中間考査)	○潜水物理学 ○潜水の種類 ○潜水業務の危険性および事故発生時の措置	○潜水環境で生じる浮力と圧力を理解し、圧力変化に応じた気体の挙動を理解する。 ○様々な事例を通して緊急時の適切な対応方法について考える。	13	○定期考査 ○授業への取組 ○提出物(レポートやノートの内容と提出期限)
6 7	○送気・潜降および浮上 (1学期期末考査)	○潜水に必要な送気 ○潜降および浮上	○送気式潜水と自給気式潜水の違いについて理解する。	14	○技術・技能の到達度
9 10	○高気圧障害 ○法令関係 (2学期中間考査)	○潜水による障害 ○潜水業務における健康管理と応急処置	○人体の構造を知り、高圧下での人体への影響及び疾病について理解する。 ○減圧症の概要と原因を知り、予防法を理解する。	16	
11 12	○潜水機材 (2学期期末考査)	○ヘルメット式潜水器 ○全面マスク式潜水器 ○スクーバ式潜水器	○各種潜水器材の名称と機能を理解し、取扱い方法を身に付ける。	13	
1 2	○自然保護・漁業との共生 (学年末考査)	○自然保護・潜水と漁業	○潜水活動が周囲の自然に及ぼす影響とその対策を理解し考えを深める。	8	

計 64 時間(55分授業)

4. 課題・提出物等

単元ごとにレポートの提出を指示することがあります。
また定期考査終了後にノートを回収します。

5. 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○潜水技術のみならず潜水環境や人体における影響について関心を持ち、学習に意欲的に取組もうとしている。	○潜水に必要な知識を習得し、その知識を総合的に活用して潜水作業で生じる諸問題について考察し、その問題に対する解決策を適切に判断することができる。	○潜水環境における物理的現象を理解している。 ○各種潜水機材の使用方法を理解し、適切に取扱うことができる。	○潜水に関する総合的な知識を習得している。 ○潜水に関する知識を身に付けることの意義及び知識の活用法を理解している。
以上の観点を踏まえ、 ○授業への取組(授業態度、出席状況、発問への対応、発表の様子など) ○提出物(授業ノート・レポート)などの内容および提出期限順守 ○定期考査 ○技能の到達度 などから総合的に判断します。			

6. 担当者からの一言

この科目ではダイビングに関する基礎的な知識と技術の習得を目指します。現在、海洋開発や資源増殖、海洋性レクリエーション等でダイビングを行う人が増加しています。安全に潜水業務やレジャーダイビング等を行うことができる能力や態度を身に付けられるよう努力しましょう。

(担当：増田 真之介)